大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和7年度	学校コード	F129310109284	設置等組織名	人間情報学部（人間情報学科）
大学名	奈良学園大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	奈良	事業計画名	Well-beingに向けた感性イノベーションを目指す「人間情報学部人間情報学科」設置計画

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和7年度	1-① 令和7年9月 新学部学科設置のための検討会発足 1-④ 令和7年11月 先行事例調査実施（R8.2.19承認） 1-② 令和8年2月 学生ニーズのアンケート調査実施（1回目） 1-⑤ 令和8年2月 企業等訪問調査実施（R8.2.19承認）	1-① 令和7年9月 新学部学科設置のための検討会発足 「奈良学園大学新学部検討委員会」を発足させた。第1回会合を9月25日に開催、第2回会合を10月29日、第3回会合を11月27日、第4回会合を12月19日、第5回会合を1月28日、第6回会合を3月26日に開催した。新学部の設置の理念、養成する人材像、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーおよびカリキュラムについて検討を行った。また、高校生に対するアンケート調査の内容の検討を行い、アンケート結果についての考察を行った。 1-④ 令和7年11月 先行事例調査実施（R8.2.19承認） 愛知淑徳大学人間情報学部の視察を11月20日に行った。 1-② 令和8年2月 学生ニーズのアンケート調査実施（1回目） 奈良県内の高校（国立、県立、市立、私立）に在籍する高校2年生を対象に検討中の学部内容に関するアンケート調査を２月に実施した。 1-⑤ 令和8年3月 企業等訪問調査実施（R8.2.19承認） ビル、医療施設、産業施設の空調などの設備工事を手がけているダイダン（株）の大阪本部（大阪市）を3月31日に訪問し、社長と面会してPBL実施に向けた依頼と事前協議を行い、内諾を得た。	令和7年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	~~1-③ 令和8年2月 学生ニーズのアンケート調査実施（2回目）~~（R8.2.19承認）		令和8年度自己評価：リストから選択してください。
令和9年度	2前-① 令和9年7月 新校舎の工事着工 1-⑥ 令和9年11月 先行事例調査実施（R8.2.19承認） 1-⑦ 令和10年2月 学生ニーズのアンケート調査実施（2回目）（R8.2.19承認）		令和9年度自己評価：リストから選択してください。
令和10年度	2-① 令和10年12月 新校舎工事完了		令和10年度自己評価：リストから選択してください。
令和11年度	3-① 令和11年4月 募集広報の実施 3-② 令和11年12月 感性評価装置の購入（脳波計測装置）		令和11年度自己評価：リストから選択してください。
令和12年度	3-③ 令和12年4月 募集広報の実施 3-④ 令和12年12月 感性実験装置の購入（バーチャルリアリティ装置）		令和12年度自己評価：リストから選択してください。
令和13年度	3-⑤ 令和13年4月 募集広報の実施		令和13年度自己評価：リストから選択してください。
令和14年度	3-⑥ 令和14年4月 募集広報の実施		令和14年度自己評価：リストから選択してください。
令和15年度			令和15年度自己評価：リストから選択してください。
令和16年度			令和16年度自己評価：リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和10年3月 人間情報学部認可申請予定		
定員減又は 学部等の廃止	令和10年10月 人間教育学部人間教育学科定員減に係る届出予定 令和10年10月 保健医療学部リハビリテーション学科定員減に係る届出予定	令和8年4月 人間情報学部人間情報学科50人減員に係る届出（入学定員150名→100名、令和9年度より実施）	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	奈良学園大学

2.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

3.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。☐

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件※について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通した教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
■ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
☐ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.)化粧品会社、自動車会社、電機メーカーなど既に感性工学を活用した製品開発を行っている企業の技術者に加えて、人間の感情を理解するコンピュータ(Affective Computing)として音声や表情から感情や心の状態などを出力する感情解析AIを開発しているベンチャー企業の研究者を招へいした講義やPBL演習を行う計画である。 b.)感性価値創造に関して研究を展開している関西学院大学の感性価値創造インスティチュートの長田教授とはとはすでにコンタクトを取っており、今後密接に連携を行って科目の整備・実施を行う。奈良学園大学の近隣に所在する奈良女子大学、大阪大学および奈良先端科学技術大学院大学とも連携を取りながら科目の整備・実施を行う予定である。	今後の教育体制での連携を想定して、令和7年度は新学部検討委員会に大阪大学情報科学研究科、奈良女子大学、関西学院大学工学部、大阪芸術大学短期大学部の教員に外部専門家として委員に加わっていただき、カリキュラムの検討を行った。この中ではPBL科目を含んだ4年間のカリキュラムの案を作成した。「感性AIコース」と「メディア情報コース」の各コースの3年次において「PBL演習Ⅰ」および「PBL演習Ⅱ」を実施することとしている。令和7年度においてはPBLの共同実施先として、ビル、医療施設、産業施設の空調などの設備工事を手がけているダイダン（株）の大阪本部（大阪市）を訪問し、社長と面会してPBL実施に向けた依頼と事前協議を行い、内諾を得た。	より多くの企業や大学との連携協議については、令和8年6月の理事会で人間情報学部の設置準備について承認を得た後に進める。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
☐ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a.)理系だけでなく文系生徒の入学も促進するように論理的な思考能力の把握に注意しながら、理系型入試（数学・英語）、文系型入試（国語・英語）を導入する予定である。また、教育連携校を対象として連携校推薦入試、育成型入試として総合選抜型入試を実施する計画である。b.)単なる情報系の学部ではなく、化粧品会社などとも関連が深い人間の感性といった女子学生の関心を集めやすい内容であることをアピールしながら女子学生の獲得に努める。出口においても感性デザインコースを設けて女子学生にも入学しやすいようにする。c.)近隣で情報数理科を有する県立奈良北高等学校はスーパーサイエンスハイスクールに指定されていることもあり、課題探究活動・出前授業をはじめ密接な連携を取って行く。また、奈良県内の12校のDXハイスクール（公立10校、私立2校、令和6年度探択校）とも課題探究活動、出前授業などで連携を図る。さらに、人間教育学部と連携した情報リテラシーに関する初等中等学校（同法人内の学校も含む）への出前授業を行う。d.)社会人を対象にマイクロクレデンシャルにより、一部の単位をまとまってコースとして認めてゆくことを考える。これにより、社会人学生と若い学生が相互に交流する場を作る効果も期待する。	多様な入学者の受け入れのために、令和7年度においてはコース構成、３種のポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション）およびカリキュラムを検討した。文理両系統の高校生の受け入れや女子学生の確保に対応できるよう、「感性AIコース」と「メディア情報コース」を設けることとした。「感性AIコース」ではAI（人工知能）を理解する上での土台となる数学的な素養を備え、各種の最適化手法や機械学習について学ぶと同時に認知科学、知覚情報処理といった心理学面から人の心の過程を理解して、AIを活用し、人間の感性を考慮してより満足度の高い製品やサービスを創出し、その結果を地域活性化にも活かせるような人材を育成する。「メディア情報コース」ではAI、VR/AR/MRといった仮想現実関連技術、画像・音声情報処理といったメディア技術および人の感性に訴えかけるコンテンツを作るための方法論や技術を学ぶと同時に認知科学、知覚情報処理といった心理学面から人の心の過程を理解して、各技術を駆使して教育、医療、介護、エンタテインメント等の分野で活用されるようなシステムやコンテンツを開発できる人材を育成する。このような人材育成のカリキュラム案を作成した。心理学を加えることによって女子学生の確保に向けた内容となっていると考えられ、高校生対象のアンケートにおいて女子からも男子の1/2程度の生徒が興味を持っているという結果が得られている。	より具体的な取組の内容については、令和8年6月の理事会で人間情報学部の設置準備について承認を得た後に進める。

大学名	奈良学園大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	人間情報学部人間情報学科

		年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		改組状況		選定																		
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

大学名	奈良学園大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

年度				R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

大学名	奈良学園大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	310	310																	
		入学者数	人	264	223																	
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	0	0																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	310	310																	
		入学者数(B)	人	264	223																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.85	0.72																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	1,240	1,240																	
		編入学定員	人	0	0																	
		在籍者数(D)	人	1,022	969																	
		編入学者数	人	0	0																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.82	0.78																	

４.外部資金の状況（全学）

年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況	申請-5年	申請-4年	申請-3年	申請-2年	申請-1年	申請	選定												
項目 / 単位																			
外部資金獲得額 / 千円	20,273	24,893	32,787	54,207	33,732	37,070	35,304												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均（過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	30,471
本事業による助成金の額(F)	千円	970,000
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	54,721

特記事項